

あこがれる 思い忍ぶ（思い焦れる）と同じ手まね。

朝 寝るの身振から、「起きる」と頭をもたげる。

勢く 嘘一云う。

浅間しい 「悲しい」「なさけない」と同じ手まね。

味 「うまい」の手まねの例の二。

明日 「一つ一未来」を見よ。

悪しからず 悪い一ごめんなさい。「悪」の手まねをして、片手にて拜みあやまる身振りをす。

足駄 掌を下向けにした左手を足駄の台として、右手を足駄の南のつもりで、左掌の下に横直角に前そして後につける。

預かる 右手に物を受け取る動作（さし出した手を胸許に返す）をして、その掌を（五指をやや曲げて）右肩に被せるように置く。

右手掌を右肩に被せるように置くことを「負う」と云うことで、「責任を負う」ことになる。手もとに受け取って置いて責任を持つとのこと。

預ける 右手にて物を手渡す動作（胸もとから手を前へさし出す）をして、その掌を（五手を彎曲して）右肩に被せるように一旦置いてから、すぐにその手を前へさし出す。一旦肩に置いた手を前へさし出すのは、責任を渡す、即ち責任を先方に持って貰うと云うこと。手渡した物に責任をもって置いて貰うとのこと。

焦せる 下腹部の位置に、掌を上向け五指の指頭を左にさした右手。これも掌を上向け五指の指頭を右にさした左手。この両手を交互に上下する運動。心落ちつかぬ様。

遊ぶ 両手のそれぞれ指頭を上にした人差指を顔の両側にして、交互に前後に運動さ

せる。幼児が玩具を振って遊ぶことから来た手まねか。

与える 掌を上向けた両手を重ねて 前にさし出す。

あたりまえ 右手の人差指と中指をかぎに曲げて、左手の掌の上を一二度叩く。これは「規則」「決っている」と云う手まねにもなる。

暖いぬか 「春」と同じ手まね。

新しい 五指の指頭を集めて、眼の前に向けてと同時に、ぱっと五指を開く。「眼醒めるばかりの意。「珍らしい」の手まねともなる。次に「美しい」の手まねをつけ加える。(五指の指頭を上にし、掌を内側にした手で、鼻頭の上をさっと横に撫る)

暑い 「夏」と同じ手まね。

熱い 湯に手を手を入れて、或は物に手を触れて、その熱さに驚いてその手で耳朶をつ

まむ表情と身振りのそま。

あつかましい 親指と人差指でつくった輪を頬に直角にあてがう(親指の方を頬につける)と同時に弾くように人差指の指頭を前へ離す。面の皮の厚いのを表わしたもの。

幹旋する 指頭を上にした右親指を口許にして、それを右へまた口許へと二度ばかり往復運動をさせる。両者へ口を利くと云うこと。「通訳」「紹介」と云う手まねにもなる。

天晴れ 腕前——感心。

集める・集まる 五指の指頭を上にし、掌を互いに向かい合うた両手。五指を少しまゝに屈めて、左右から接近させて、胸のちようど前で合わせる。両手の五指を人々或は多くの物として、一カ所に集まる様。「会」

「会合」と云う手まねにもなる。
あてはずれ 五指の指頭を上にし、掌を